

サクラの季節

桜前線の話がニュースになる頃、多くの人がサクラの開花を今か今かと期待するようになります。不思議なもので、2月の末から話題に上るカワヅザクラの開花の話を目にしてもあまりワクワクしません。やはりサクラは春です。

あきる野では、靖国神社の標準木の開花宣言から10日前後遅く開花を始めます。と、ここまでの話は、ソメイヨシノの話になります。

サクラには沢山の種類があり、ソメイヨシノより少し早く咲くサクラもあり、少し遅く咲くサクラもあります。

あきる野の野生のサクラ

あきる野には野生のヤマザクラが多くあります(山で咲いているからヤマザクラではなく、ヤマザクラという名前の種があります)。また、山野にはヤマザクラ以外にもサクラらしいサクラがあります。エドヒガン、チヨウジザクラ、カスミザクラなどの野生のサクラが見られます。

エドヒガン

名前から想像すると栽培品種とされますが、野生種のサクラです。ソメイヨシノは、オオシマザクラとエドヒガンの自然交配から生まれたと言われています。

特徴は、ガクの根元(萼筒)が膨らみ、ガクは壺のような形になります。名前から分かるようにお彼岸の頃に咲くサクラで、ソメイヨシノより一足先に咲きます。ヤマザクラより分布域は広く、九州から東北まで広い分布域をもっていますが、数はそれほど多くないようです。

エドヒガンは、サクラの中でも長寿のサクラで、全国の大桜と呼ばれるサクラは、この種が多く、樹齢千年を越すものもあります。

あきる野の桜と言えば、五日市線の各駅にある安兵衛桜(ソメイヨシノ)が知られています。その中でも、武蔵引田駅にある3本の桜の内、2本が早咲きで、車窓からも一足先に花見ができます。

始めは、ソメイヨシノの早咲きかと思っていました。しかし、よくよく調べてみると、早咲きの2本はオオカンザクラ(安行桜)で、ソメイヨシノとは違う品種のようです。

花木苗の生産地で有名な埼玉県の安行市(あんぎょうし)で生産されてきたことで、安行桜(あんぎょうざくら)と呼ばれることもあります。大きな苗産地では、時折、苗木品種を取り違えて販売されることもあるそうです。あきる野の安兵衛桜も、そのような経緯で安行桜が紛れ込んだのかも知れません。

オオカンザクラ(安行桜)

ソメイヨシノより色が少し濃く、人目を引きます。カンザクラの名前のとおり、東京の開花宣言より10日~1週間ほど早く咲きます。

しかし、桜の花色はとても微妙で、初めは白っぽく咲いているソメイヨシノも数日経つと、花弁に含まれる鉄分が空気に触れることで酸化し、ピンク色が強くなってきます。

色目だけで桜の種類が分からない理由の一つです。

ソメイヨシノのガクには毛がありますが、オオカンザクラのガクは無毛です。このような細かい違いで桜は種類や品種を見分けます。一番確実な方法が、このように花の特徴で種類を判断することです。

また、桜の種類を見分ける方法の一つに葉の特徴もあります。しかし、葉も1本の木で、大きな葉、小さな葉、日陰の葉、日向の葉など様々で、なかなか難しいところがあります。

大木になると、葉を手にとって調べることも難しく、種類を見極めるのは、とても難しいと思っています。

一般的な桜の樹皮(皮目)は、左の写真のように横方向に模様がつきますが、右の写真はコナラのような縦方向に樹皮の模様がついています。桜には見えないのですが、エドヒガンの幹です。

さらに、古木になると、多くの桜の樹皮は、ざらざらで、樹皮から判断するときも、なんとなく判断しているのが、現状です。

あきる野では、4月下旬に見られるカスミザクラも山中にまれにあります。これからの季節、桜を気にしながら山歩きするのも楽しいかもしれません。(杉野)

